

# ファミリーヘルス推進員制度

## 江戸川区健康部健康サービス課(健康サービス係&健康サポートセンター)

ファミリーヘルス推進員(約300人)は、ウォーキングの普及、健康講座の開催、地域ミニデいの運営支援、健康ボランティアの育成などの健康づくり普及活動を行う。区内8つの健康サポートセンターでは、その事務局を担当。「地域力をつくる仲間」として連携し、関係部局や地域資源とつなぐなど、ポピュレーションアプローチの一翼を担うパートナーと位置づけている。地域に認知され、多様な資源から協力要請が入る存在となっている。

### 概要 体制

- 各健康サポートセンターでは、ファミリーヘルス推進員会を組織し、定例会には保健師等の職員が参加。4つの部会にも、担当職員を配置。区健康部健康サービス課健康サービス係では、ファミリーヘルス推進員協議会の事務局を担当。協議会では、各地区の活動の共有化、各方面からの協力要請の調整などを行っている。
- ウォーキングの普及、健康講座の開催、広報誌の発行等のほか、区内35か所のミニデイや地域まつりなどでのフレイル予防に取り組むなど、活動の幅を広げている。

### 背景 課題

- 昭和61年の発足当時のファミリーヘルス推進員の役割は、健康講座の開催や健診の周知等が中心だった。
- 地域からの健康づくりの発信・活性化が課題となる中、平成16年に部会制の導入とともに、協議会を組織して、活動の共有化を図った。

### 区 民

#### ウォーキング

ウォーキング月間には、地区ごとにスポーツ推進員や青少年委員などと協働し、大会を開催。ウォーキングフェスタでは、ウォーキング協会に協力している。

#### 地域ミニデイ運営支援

区内35か所のミニデイをフレイル予防の拠点として活用。健口体操などを実施。

#### 健康講座開催

##### 自殺対策

保健所のゲートキーパー研修受講を促し、貴重な人材として活躍。

#### 子育て支援

子育て支援にも関わり、2か月児宅を訪問する「赤ちゃん訪問員」として活躍する推進員もいる。

#### 各種の会議等への参画

東京オリパラ区民連絡会、食育推進連絡会、精神保健協議会、健康づくり推進協議会、地域支援会議等の委員。

### ポピュレーションアプローチ

#### ファミリーヘルス推進員

ウォーキング部、講座・研修部、育成部、広報部の4部会制。40～80歳代(60～70歳中心)、委嘱2年、再任OK

#### 協働

ウォーキング普及、健康講座開催、地域ミニデイ運営支援、健康ボランティア育成、広報誌発行を担う。推進員協議会では、各地区の推進員会と相互に活動・情報を共有する。

#### 健康サポートセンター

推進員協議会の事務局

各地区推進員会の定例会に参加。健康情報などを提供。健康サービス課健康サービス係は、推進員協議会の事務局。推進員を「地域力をつくる仲間」と捉え、協働している。

生活振興部(町会・自治会)

### 効果 成果

健康サポートセンターの関与により、地域で認知されるようになり、東京オリパラ区民連絡会、ウォーキングフェスタ組織委員会などのほか、地域支援会議などの公的な協議会・会議への出席も求められるようになった。また、子育て支援や自殺対策にも取り組むようになった。当初175人だった会員数は現在、300人にまで増加した。推進員の健康行動を調査したところ、2年間で改善傾向を示した。複数任期を務める推進員は、やりがいと楽しさを実感し、健康長寿を実現しつつ、情報発信を行う貴重な人材となっている。

### 保健センターの連携機能・役割

- ファミリーヘルス推進員の定例会等に毎回、職員が参加し、地域の情報を得たり、健康情報を提供したりと、積極的に関わっている。
- 関係部署や団体などから協力要請が入った際には、推進員と一体的に協働で対応しており、関係部署や団体などにアンテナを張って、協働できる場所がないか、と意識をしている。
- 推進員が健康サポートセンターに立ち寄った際にも、会話をしながら、地域等の情報を得るようにしている。
- 健康サポートセンターにハイリスク対策が強く求められる中、推進員と協働することがポピュレーションアプローチの1つの展開につながる、という利点を職員に伝え続けている。
- 推進員の育成支援には時間がかかるが、職員だけでは手の届かない地域の隅々への発信ができるという意義を職員間で共有している。

### ポイント

- 推進員は町会等からの推薦のため、区生活振興課と連携、●各健康サポートごとに活動に伴走し、支援、●ミニデイや健康講座等でフレイル予防も開始、●地域に認知され、他課の協力要請が増加、●健康サポートセンターは「地域力を創る仲間」と認識

# ファミリーヘルス推進員制度

## 江戸川区健康部健康サービス課の動き(連携体制構築に向けたプロセス)

### 俯瞰的立場の職員の存在

- ・区の重点事業等を俯瞰する立場の職員が、ファミリーヘルス推進員の重要性を認識している。
- ・専門職だけでは届かない部分に届ける重要な社会資源の推進員と協働したポピュレーションアプローチの意義を職員に伝えている。



A 俯瞰的立場の職員



① 位置について

#### 位置について ヨーイ

・ファミリーヘルス推進員の発足当初、活動の中心は、健康講座の開催や健診の周知。発足後10数年経過する中、活動の停滞が生じ、活性化が課題となっていた。



② ツールをつくる

#### ツールをつくる

・推進員活動の狙い、フレイル予防や子育て支援など取り組むべき課題等をまとめた手引きを作成し、支援。  
・推進員の意識向上や行動変容を促す一助としてセルフチェックシートを作成した。



③ 育てる、促す

#### 育てる、促す

・健康サポートセンターの関与により、活動とともにその存在の認知度が高まった。結果、関係部署等から介護予防やフレイル予防、地域共生社会づくりなどに関わる活動への協力要請が増えてきた。



① 位置について



① 風をつかむ

#### 風をつかむ

・「高齢社会の到来を視野に入れた介護予防対策の必要性」と「ファミリーヘルス推進員活動の停滞」の双方を抱える中、平成16年にその活動の活性化を目指して、健康サポートセンターの関与を強化することにした。



② 根拠を集める



③ 仲間をつくる

#### 協議組織をつくる

・平成16年に健康サポートセンターごとに「推進員会」を組織し、講座・研修部、育成部、広報部、ウォーキング部をつくり、いずれかに所属する体制とし、職員も配置し、支援体制を組んだ。  
・同時に、健康サービス係に事務局を置く「推進員協議会」を発足させ、各地区の会長らが活動を共有する仕組みを創設。職員協議会に参加する体制とした  
・関係部署等からの協力要請は、事務局が調整し、推進員につなぐなど、一体的に活動する体制とした。



⑤ ツールをつくる



⑥ 育てる、促す



⑦ 評価・フィードバック



⑦ 評価・フィードバック

#### 評価・フィードバックする

・ウォーキング大会や健康講座、ミニデイでのフレイル予防、自殺対策などの関係者からの声や評価を推進員にフィードバックしている。  
・推進員活動が自身の健康行動に変化をもたらすかを見るセルフチェックシートで、2年目で点数が改善したことを確認した。



B 人材育成の意識

### 人材育成の意識

- ・推進員の育成支援に手間はかかるが、職員だけでは届かない部分に対応できる貴重な存在であると職員間で共通理解している。
- ・ハイリスク対応が要求される健康サポートセンターでは、推進員支援に割ける時間に限りはあるが、推進員への日々の支援の積み重ねが区民の健康づくりの意識向上の醸成につながる、というメッセージを伝え続けている。